

平成29年度 大阪府立大手前高等学校第1回学校協議会議事録

平成29年7月14日(金)
13:00~15:00
府立大手前高等学校校長室

- 1 開会・校長挨拶
- 2 委員・出席者紹介
- 3 会長挨拶
- 4 協議
 - (1) 学校経営計画：教育目標と学校評価等について
 - (2) 平成28年度 GLHS 評価について
 - (3) 平成30年度教科用図書の選定について
 - (4) その他
- 5 閉会

配付資料

平成28年度 学校経営計画及び学校評価
平成29年度 学校経営計画及び学校評価
平成29年度 学校案内
平成30年度 使用教科書一覧表
GLHS評価審議会資料
学校協議会 実施要項

6 委員からの主な意見

<学校評価について>

意見 学校教育自己診断では、生徒側と教員側の両面から、アンケートをとることが多い。教師側は生徒のことを「理解している」、「私たちはやっている」という割合が多いが、生徒は「必ずしもそう思っていない」、「意図が伝わっていない」ことが多い。このような意識の乖離は、教員間のコミュニケーションで改善できる。生徒情報、支援の方法、授業の方法などを共有することが大切だ。

意見 遅刻の件数は増加傾向ではあるが、増加のうちには不登校気味の生徒の遅刻も含まれるのではないだろうか。遅刻指導の指標は遅刻総数だけではない。不登校気味の生徒の遅刻が多いならば、通常の指導だけではなく、様々な支援も必要だろう。

<GLHS評価について>

意見 GLHS校入学への地域枠がなくなり、オール文理学科になったGLHS校に生徒が集まることになった。今後10校のすべてのクラスが文理学科になると、生徒減とあいまっていっそうの生徒獲得努力が必要になってくる。またそ

うなれば、これまでやってきた活動のレベルの維持も難しくなる。

意見 10校全クラスが文理学科になったときの予算と人の裏づけはあるのか。もしないなら、「オール文理になって薄まっているだけ」と保護者に言われかねない。そんなようになってはダメだ。

意見 大手前の地元の中学校から見れば、オール文理で進路指導はいつそう難しくなるだろう。これまでの指標が通じなくなってゆく。

意見 保護者から見ても普通科があるほうが安心して出願できた。

意見 文理学科の理念を持って成果も上げたいと考えるなら、その拡大には保証がないとダメだ。今の状態をキープするなら3校オール文理科で7校オール普通科でもいい。

意見 先に2校がオール文理にしたときでもすでに2校以外の文理学科に変化が出ていた。

<使用教科書選定について>

意見 学校が組織的に選定していることがよく分かった。また、選定の理由も安易に選定しているのではなく、「満遍なく平易に書かれている」「深く内容が掘り下げられている」等の具体的理由があり、保護者として安心した。